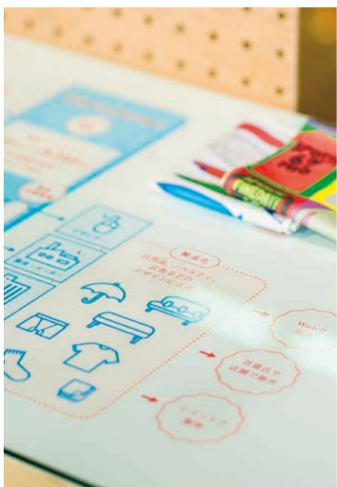


Good Job!
ANNUAL REPORT
2014-2015





Good Life, Good Job!

社会の変化や価値観の多様化により、私たちのライフスタイルは大きく変わりつつあります。近年、誰もが誇りをもってはたらき、豊かになれる社会のあり方を模索する試みが多数行われています。2014年度で3回目を迎えるGood Job!展では、障害のある人やその周辺で生まれつつある魅力的なプロダクトやユニークな取り組みに、そのヒントがあるのではないかと考え、さまざまな事例を紹介してきました。今年は、全国5カ所(北海道・東京・愛知・福岡・兵庫)を舞台に、アート・デザイン・ビジネス・福祉の分野をこえ、出会いと仕事生まれる場づくりを展開、新たな活動の萌芽が生まれつつあります。



Good Job! 2014-2015 Review

0

PRE-SEMINAR 北海道プレセミナー 障がい者アート×デザインセミナー@北海道 ～個性を活かす障がい者アートの 未来をデザインしよう～

日時 2014年9月27日(土)14:00～17:00 会場 札幌市教育文化会館研修室301
スピーカー：播磨靖夫(一般財団法人たんぼの家 理事長)、山下完和(社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房 施設長)、高野賢二(NPO法人La Mano クラフト工房La Mano 施設長)、柴田尚(特定非営利活動法人S-AIR 代表)、早坂清花(社会福祉法人札幌協働福祉アートセンターあいのさと 支援主任)、加納尚明(一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツ 代表理事)

REPORT

北海道では「障害のある人のアート×デザイン」をテーマにしたセミナーがはじめてということもあり、「なぜ福祉の現場でアートに取り組むのか」「施設や地域はどのように関わっていくのか」を考えることからスタート。障害のある人の仕事や生きがいにつながる先進事例を共有、アートの可能性とコミュニティの活性化について議論した。

2

2014. 11/28(fri.)-30(sun.) TOKYO 東京展



来場者数
のべ
4,426人

開場時間 11:00～20:00
会場 渋谷ヒカリエ 8F 8/COURT [東京都渋谷区渋谷2-21-1]

昨年に引き続き、渋谷ヒカリエの8/COURTにて。一般の来場者に加えて、協働している企業やAble Art Company登録作家、出展関係者のほか、Laboratorio ZanzaraやTOHEといった海外関係者も来場した。出展者自身による展示説明や交流会などを経て、来場者や関係者間の交流が促進された。

SEMINAR 東京セミナー

テーマ インクルーシブビジネスと ダイバーシティマネジメント

日時 2014年11月27日(木) 19:00～21:00
会場 コクヨファニチャー株式会社 霞が関ライブオフィス コミュニティサロン
スピーカー：田村大(株式会社リ・パブリック 共同代表)、原田恵(株式会社リ・パブリック アシスタントディレクター)、有昌昌時(株式会社カワフジ 社長、株式会社高齢社取締役)、河内律子(コクヨ株式会社RDIセンター MANABI LAB. リーダー/WorMo' 編集長)

REPORT

障害福祉だけでなく、より広い範囲で多様な角度から「はたらき方」を見つけ、「インクルーシブ・ビジネス」という社会構造を考えるセミナーとなった。障害のある人が研修に貢献する講座、定年後の生きがいを支える役割づくりや、妊娠・出産後の女性のキャリア形成、これらは現代社会において生きづらさを抱える人たちへの明るいモデルを提示した。

4

2015. 1/23(fri.)-25(sun.) FUKUOKA 福岡展



来場者数
のべ
6,790人

開場時間 10:00～20:00
会場 天神イムズB2F イムズプラザ [福岡県福岡市中央区天神1-7-11]

昨年に引き続き、会場となったイムズプラザ。地下街と直接連絡しているため、通行人が賑やかに行き交う。福岡市発の障害者施設の商品力及び販売力の強化を目的とする「ときめきプロジェクト」など、行政と福祉に活気のある福岡。その街の空気を反映してか、展示・セミナーともに非常に多くの人々が来場した。

SEMINAR 福岡セミナー

テーマ 価値を生み出すネットワーク ～これからの働きかたと仕組みを考える～

日時 2015年1月24日(土) 14:00～17:00 会場 イムズ10F セミナールームA
スピーカー：播磨靖夫(一般財団法人たんぼの家 理事長)、黒松祐紀(株式会社チャネルエンターテインメントワークス)、江藤憲章(福岡県保健福祉局障がい者部障がい者在宅支援課)、藤井雅子(はあと・フレンズ・ストア ストアマネージャー)、坂巻諒理(京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 係長)

REPORT

「どのように商品を開発し、販売するためにどんな活動をしているのか」、商品を生産・販売しつづけている民間企業にとっては日常的なことも、「ケア」を中心とする福祉の現場では両立が難しいのが現状。これを解決する方法のひとつとして、行政・企業・NPOとの連携・協働があり、その具体的な事例として福岡市と京都市の事例について学んだ。

出展リスト

PRODUCT 製品の開発

テーブル 株式会社伊千呂×Able Art Company、テキスタイル 株式会社フェリシモ C.C.P [UNICOLART]、レインウェア 久野染工場×Good Job!プロジェクト、チェア コクヨファニチャー株式会社×Able Art Company、ステーションナリー コクヨアートプロジェクト、パーカーアイテム dot、テキスタイル たいせつプロダクト、ステーションナリー poRiff、カレンダー 西淡路希望の家、アクセサリ ぼんめこのこ、ストール 百々染、手織りマット salvia×クラフト工房LaMano、タイログラフィ・プロダクト Laboratorio Zanzara (イタリア)、バッグ TOHE (ベトナム)、ステーションナリー rawside (韓国)

SCHEME 協働の仕組み

Able Art Company、special mix、ときめきプロジェクト、はあと・フレンズ・プロジェクト、ハチエイチ

MEDIA 伝えるメディア

「コトノネ」、「ariya.」、「Co-Co Life ☆女子部」、「STIR」

主催：一般財団法人たんぼの家 後援：北海道、愛知県、札幌市、名古屋市、神戸市、福岡市、公立大学法人札幌市立大学、北海道新聞社 助成：日本財団 特別協賛：株式会社丹青社、トヨタ自動車株式会社 協賛：株式会社国際デザインセンター、株式会社ソフィア、株式会社竹尾、株式会社西山ケミクス、株式会社ハーバー研究所、株式会社プリプレス・センター、コクヨファニチャー株式会社、明治安田生命保険相互会社、WARDROBE by DHC 地域協賛：株式会社特殊衣料、九州ろうきん 協力：イムズ、渋谷ヒカリエ、一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツ、NPO法人エイブル・アート・ジャパン、NPO法人まる会場構成：dot architects メイングラフィック：UMA/design farm 映像制作：中村太紀

1

2014. 11/21(fri.)-24(mon.) HOKKAIDO 北海道展



来場者数
のべ
402人

開場時間 10:00～19:00 (※最終日のみ16:00まで)
会場 北海道新聞社1階 DO-BOX [北海道札幌市中央区大通西3-6]

会場となる、北海道新聞社1階にある道新プラザのギャラリー「DO-BOX」は、札幌市時計台の斜め向かいという好立地にあり、関心の高い人が多く来場した。アートやデザインを通して障害のある人の仕事づくりを支援する、一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツのメーリングリストを見て来場したという人も多く、新たな交流が生まれた。

SEMINAR 北海道セミナー

テーマ 障がい者アート×デザインセミナー@北海道 Vol.2 ～アートのもつ創造性を福祉の現場にいかそう～

日時 2014年11月23日(日) 14:00～17:00 会場 さっぽろテレビ塔2階貸ホール
スピーカー：森下静香(一般財団法人たんぼの家 常務理事)、上田祐嗣(アートセンター 画業 代表)、前川亜希子(デザイナー)、卜部奈穂子(児童デイサービス ベンガアート 代表)、菊地里奈(社会福祉法人北光福祉会 向陽園 アート活動支援室びかり 支援員)

REPORT

1回目に続き、アートとデザインの可能性を考える機会となった。上田さんからは「アートを通してインクルーシブな社会をつくっていくことの大切さ」、前川さんからは「デザインするためには想いを伝えたい対象、その誰かにどう伝えるかの重要性が話された。北海道の事例では子どもの発達と表現活動の関わり、重度の障害のある人との実践が報告された。

3

2014. 12/12(fri.)-14(sun.) AICHI 愛知展



来場者数
のべ
3,598人

開場時間 10:00～20:00
会場 国際デザインセンター・デザインギャラリー／ナディアパーク2F アトリウム・イベントスペース [愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパーク・デザインセンタービル]

北海道展と同じく初の開催となり、ナディアパーク内の2会場で展示。有松染めの久野染工場×Good Job!プロジェクトによるレインウェア、デザイナーとの協働によりオリジナルの家具を開発している伊千呂×Able Art Companyのテーブルなど、地元愛知の企業に関連する展示もあり、関心を集めた。

SEMINAR 愛知セミナー

テーマ 福祉と企業の協働から生まれる 地域ブランディング

日時 2014年12月13日(土) 14:00～17:00
会場 国際デザインセンター6F セミナールーム3
スピーカー：播磨靖夫(一般財団法人たんぼの家 理事長)、佐藤直之(Roots 代表)、久野浩彬(有限会社絞染色 久野染工場 取締役専務)、浅野翔(デザインリサーチャー)、小林大祐(一般財団法人たんぼの家 スタッフ、Good Job!プロジェクト事務局)、江坂恵里子(株式会社国際デザインセンター 海外ネットワークディレクター)

REPORT

障害のある人を「いかに支援するか」ではなく、障害のある人が「アート(精神労働)とデザイン(才知)を通じて、いかに社会に貢献していくか」を考えた。唐津や有松地域でのデザインを通じた地域づくりの事例を学び、障害のある人が単なる支援対象ではなく、社会に価値を創造する存在として、地域活性化や伝統産業に貢献する可能性を探った。

5

2015. 3/6(fri.)-8(sun.) HYOGO 兵庫展



来場者数
のべ
525人

開場時間 10:00～19:00 (※最終日のみ17:00まで)
会場 KIITOデザイン・クリエイティブセンター神戸・ギャラリーA [兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4]

神戸に本社があるフェリシモの「UNICOLART」の展示・販売があったほか、新たに製品化されたコクヨアートプロジェクトの取り組みも展示。関連イベントとして、poRiffのワークショップが開催され、KIITOという会場の特性もあってか、デザイナー・クリエイター関係者が多く来場した。今年度の巡回展の最後を締めくくるイベントとなった。

SEMINAR 兵庫セミナー

テーマ 福祉とデザインの間わりかた

日時 2015年3月7日(土) 14:00～17:00
会場 KIITOデザイン・クリエイティブセンター神戸・ギャラリーA
スピーカー：播磨靖夫(一般財団法人たんぼの家 理事長)、高橋孝治(デザイナー)、芦田晃人(株式会社フェリシモC.C.P[UNICOLART(ユニカラート)]代表)、原田祐馬(UMA/design farm)

REPORT

障害のある人のアート(表現)を活用するためにデザイナーと連携するとき、福祉職員は時間やスキルを理由にデザイナーに任せ、思考停止に陥ることが少なくない。アートをいかにデザインし、いかに商品にしていけるか。モノをつくるとはどういうことか。その過程と意義を知ることで、福祉とデザインのこれからの関係性を考えるセミナーとなった。

REVIEW from Organizer

Good Job!展 2014-2015をふりかえって

— 2014年度で3回目を迎えるGood Job!展(以下、「GJ!展」)では、初の試みとして公募を実施しました。全国から集まった、多様なプロダクトや取り組みを紹介。また北海道・東京・愛知・福岡・兵庫の5会場で、総勢15,000人の来場者を迎え、新たな協働のきっかけや商談が生まれました。その展覧会の企画・運営を裏で支えた事務局の3人が本展をふりかえりました。

Good Job!プロジェクト事務局

一般財団法人
たんぼの家

常務理事
森下 静香さん

NPO法人まる

代表理事
樋口 龍二さん

NPO法人
エイブル・アート・
ジャパン

代表理事
柴崎 由美子さん

Q1 「GJ!展」をふりかえって、感想を聞かせてください。

樋口: 「GJ!展」がはじまって3年。各地で展覧会を行ってきましたが、「いい仕事」を見せるだけでなく、「いい仕事とは?」ということを考える場も提供できたと思います。展覧会を行っていくなかで、さまざまなクリエイターとの関わりが生まれ、「今後どのような仕事をしていきたいのか?」「どんな仕事を見てほしいのか?」を思い描く良い機会にもなりました。同時開催したセミナーでは「障害のある人たちとの新しい働き方」を、各地のさまざまな先駆的事例から発表していただき、また、参加者も福祉施設関係者をはじめ、行政関係者、企業関係者など他分野の方々に参加いただき、各地での障害のある人たちとの新しい取り組みにちょっとしたきっかけをつくれたと思います。

森下: 昨年度の3会場からさらに増えて、今年度、全国5会場で開催し感じたのは、各地の違いでした。「障害のある人と一緒に新しい仕事をつかっていきたい!」という熱い想いは共通ですが、実行委員として関わる地元の人たちも来場者も、地域によって抱えている課題や状況も異なります。北海道では、ちょうど障害のある人たちと新しいアートやデザインの仕事をつかっていこうという団体が立ち上がったばかりで、まずは障害のある人のアートが、いま全国でどのような動きになっているかを共有するため、セミナーを開催しました。福岡では、障害者アートの支援を行う福岡市の先進的な取り組みもあり、改めて、それを仕事につなげていきたいと強い関心をもつ人たちが集まってきました。「GJ!展」の役割も、地域によって異なることを実感しましたね。



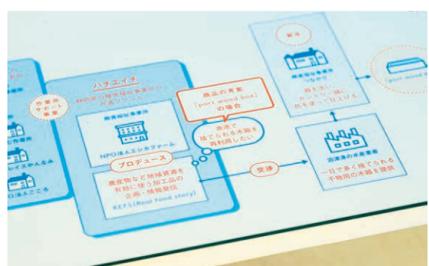
兵庫で行われたセミナーの様子。「福祉とデザインの関わりかた」をテーマに、プレゼンやディスカッションが行われた。

柴崎: 私が東京展の現場に立ってみて感じたのは、ようやく私たちの思う「仕事」がぼんやりとですがカタチになってきた、またムードとして見えてきた、という感覚でした。障害のある人の仕事へ

の想い、その実現にアイデアを思い描く人、道具や方法を考える人、実際にその仕事をカタチあるものにしていく人、それを社会に伝えていく人、販売する人、受け取る人……、それが幾重にも見えてきたという感じですね。結局、障害のあるなしに関わらず、それぞれが「自分の仕事」と「社会のなかでの自分の仕事」について考えはじめていて、少し抽象的な表現になりますが、そのムードがようやく色を帯びてきたかな、というのが率直な感想です。

Q2 今年開催する上で意識したこと、また昨年との違いなどあれば教えてください。

森下: 公募形式を取り入れたことですね。今回は、自分たちがまだ出会っていないプロダクトや作り手、取り組み、思想と出会うように、そして「Good Job!」の考えをもっと多くの人に知ってもらえるようにと出展物の公募を実施したんです。その結果、今年は海外の事例も含め、プロダクトだけではなく取り組みを支える仕組みや社会に伝えるメディアも紹介することができました。



取り組みの仕組み自体もダイアグラム形式で展示。取り組みの背景を伝えるために記録映像を放映するなど新しい試みも。

樋口: その効果もあってか、前回の「オシャレな」プロトタイプの展示とは異なり、成果物だけでなく制作背景を伝えたい商品が多かったように思います。関わった人たちの存在、最終的にそのかたちになった意味、そしてそれをデザインした人たちの意思が融合した魅力的な展示会場ができ、来場者とも自然にコミュニケーションを楽しめました。柴崎: 東京事務局では、昨年度の「GJ!展」終了後、事務所を訪れる方やお会いする方たちに、「GJ!」というプロジェクトがありまして……」としつこく「Good Job! Document」を手渡してきました。このプロジェクトでは、展覧会やセミナーという一過性のもものだけでなく、そこで生まれた交流をはじめ、日常を通して考えていくことが大切だと感じたからです。東京展では期間中に、若いスタッ

フが自発的に交流会を企画しました。多様な関わりをしている人たちが、リラックスして情報交換したり、お酒を飲んだり、楽しむ様子を見て、私は「これがまさしく肝!」と感じましたね。手前味噌ですが、こうした内発的な動きをそれぞれが重ねていくことが大きなムードをつくることにつながると思うのです。



「Good Job! プロジェクト」を紹介する「Good Job! Document」。2013年度より、これまでに4号発行。展示会場にも設置された。

Q3 今後の展開・展望について、教えてください。

樋口: 僕のなかで「GJ!展」は、社会に対して「できる!」を見せるライブツアーだと考えています。箱(会場)のなかで生まれたさまざまな価値や考え方のコールアンドレスポンスが、枠を飛び越え人の存在や役割を活かしていく。従来の場所や情報を見直しながら、その価値を生かしていく人々の関係が各地で生まれているんです。また、それらを今後のライブ(展示)にも盛り込んでいきたいですね。柴崎: 個人的には、私たち自身も日々の現場で実践を重ねていくことが必要だと思っています。特に東北では、その動きを継続しているんです。私は樋口くんの言う「コールアンドレスポンス」を瞬時にはできませんが(笑)、コールに対して、どんなレスポンスをするのが良いのか、じっくりと周りの人材や環境を見ながら組み立てたいと思います。さらに、「GJ!展」が展覧会形式の軸をもちながらも「仕事」として成立させるための役割を担う必要性について、あちこちからご意見いただきました。2015年は、そのことに応える年だと思っています。森下: そうですね。私は、今回改めて、「GJ!展」に出展いただいているプロダクトもスキームも思想も1つに限定するものではなく、今まさに、いろいろな人と協働してつくりあげていくものなんだろうなと感じて。アート、デザイン、仕事の新しいかたちを提案できることが「Good Job!」の醍醐味だと感じています。来年はまた、これまでとは異なる新たなかたちを、多くの人とつくりたいです。

REVIEW from participants

Good Job!展 2014-2015に参加して

プロダクトのファンやリピーターが、確実に増えていると実感しました!



鬼塚 淳子さん
有限会社ジェイズファクトリー
たいせつプロダクト事業部

「GJ!展」のターゲット層は活動への関心が強く、認知度も高まっている印象を受けました。たびたび足を運んでくださるお客さまや、実店舗に足を運び、ご購入いただいた方もいっしょって、コアなファンが確実に増えていると体感。展覧会の社会的価値に加え、今後は、実売という経済的価値を両立できる、共有価値の創造へ発展していくことを願います。

多くの人が集う現場に参加したことで、活動を知ってもらえるきっかけに!



芦田 晃人さん
株式会社フェリシモ
UNICOLART代表

UNICOLARTは、障害のある人の可能性を発信するプロジェクトとして2014年にスタートしたばかり。今回の参加で、商品を手にしたお客さまの声を直接聞けたり、メディアの方に取り上げていただいたり、プロジェクトについて多くの方に知っていただける大変貴重な機会となりました。今後も障がい者アートを通じた価値、可能性の発信を積極的に進めていきます。

客観的な意見や課題をいただき、たくさんの刺激を受けました!



白鳥 裕之さん
小山 裕介さん
torinoko

dotのペーパーアイテムシリーズをつくりはじめてまだ日が浅いなか「GJ!展」に参加して、貴重な体験ができました。多くの方にご意見をいただくことやほかの出展者の方と仕事や問題点など、情報交換の場をもつことができ、たくさんの刺激をいただきました。今回の展示を通じて、私たちの今後に必要なことも少しずつ見えてきたと感じています。

発信することで現状の問題や、可能性に気づくことができました!



藤井 雅子さん
はあと・フレンズ・ストア
ストアマネージャー

福岡のGJ!セミナーにて、行政との連携や、「ものを売ること」についてお話しさせていただきました。たくさんのご来場があり、みなさんの関心の高さを感じました。発表に備えこれまでの活動を振り返り、他都市の取り組みを知ること、また新たな課題を見つけることができました。今後も、人と人をつなぐ拠点としてさまざまな発信を続けていきたいです。

オリジナルカレンダーの魅力をも、改めて発見することができました!



金武 啓子さん
社会福祉法人
ノーマライゼーション協会
西淡路希望の家 美術部 代表

展覧会に出品させていただくことによって、カレンダーの魅力を改めて発見できたことが最大の収穫でした。手描きの数字を使ったスタイルにして3年目となると、毎年楽しみにして下さるお客さんがいらっしゃるという実感もじわじわと湧いてきています。今後は、楽しい数字探しを続けることはもちろん、サイズや仕様についても新たに考えていきたいです。

お客さま一人ひとりとお話しし、魅力を伝える大切さを再確認!



初瀬尾 久美子さん
いぶき福祉会 第二いぶき
ブランドマネージャー

ブースを訪れたお客さまに、さまざまな種類の植物で染めていること、1枚1枚のストールに染めたときのストーリーがあることなど、商品の特徴を説明しました。とても驚かれ、自然の優しく美しい色合いに感動される方も多かったです。百々染の大きな魅力である作り手の姿を直接お伝えするなかで、一人ひとりと対話する大切さを改めて感じました。

作者がもつ「個」のパワーの重要性を改めて認識!



藤木 武史さん
ココヨファニチャー株式会社
デザイナー

どの作品も素敵でしたが、やはり作者の個性が際立った作品には、強烈な魅力を感じました。技法や丁寧さももちろん大切ですが、本人のつくりたいと言う意思やちょっとした遊び心を感じられる作品は、見る人の共感をより一層得られることを再認識しました。忘れがちではありますが、ものづくりにおいて当たり前な部分を再度勉強させていただいた気持ちです。

作り手のストーリーとともに、商品を全国に届けることが可能に!



数内 都さん
poRiff代表

「GJ!展」の会場は、出展者と直接コミュニケーションが取れたり、参加施設の様子がわかる映像があったりと、プロダクトの背景が見える空間でした。poRiffとしては、今まで何う機会がなかなか取れなかった場所への巡回が叶って、我々が大切にしている制作者のストーリーと一緒に poRiffを全国にお届けできたことを、とても嬉しく思っています!

経路をつなぐことの大切さを理解し、商品化へと進むための良い機会に!



浅野 翔さん
フリーランス/
久野染工場デザイナーリサーチャー

「GJ!展」は、実験的な「つくりてみた」から、流通までの経路をつなぐことの大切さを理解する機会となりました。モノと人との関係を考えてきたデザインの領域が、モノを生み出す環境と人との関係、モノをめぐる人との関係にまで拡張しています。会場で「欲しい!」と言ってくれたみなさんに届くよう、これから商品化に向けて調整を進めたいです。

Backstage Report

Good Job! 展 2014-2015 ができるまで

2014

7.1-8.18

公募開始

今年度の新たな試みとして公募を開始。Webサイトやメール、郵送などでGood Job! な取り組みを広く呼びかける。今年度はプロダクトのみならず、プロジェクトやはたらき方の仕組みなど対象を広げました。

8.19-8.26

アドバイザーとの意見交換

はたらき方の視点から塩瀬隆之さん(京都大学 准教授)、ソーシャルな視点から田村大さん(Re:public 共同代表)、デザインの視点から原田祐馬さん(UMA/design farm 代表)という立場も考え方も異なる3名に、公募アドバイザーをお願いしました。アドバイザーとの意見交換を経て、展示内容を検討しました。

COMMENT

一人ひとりできることは違います。その違いを許す“つながり”こそクリエイティブ性の源泉。居心地の良い“はたらき”を創意工夫で生み出した事例がたくさん集まりましたね。

アドバイザー：塩瀬隆之 [京都大学准教授]

10.23-10.30

動画撮影



展示、広報に使用する動画を撮影。今回は有限会社絞染色久野染工場でのワークショップ、視覚障害者支援総合センター内にあるチャレンジでの「dot paper item series」の製造現場、就労継続支援B型事業所・オーロラでの「poRiff」製造現場を取材しました。

10.26

展示内容決定

出展のための調整を行っていた他の出展物も加え、120件のうち、最終的に25件の取り組みを展示内容として公表しました。「製品の開発」「協働の仕組み」「伝えるメディア」といった展示カテゴリーも決定。このほか、協賛企業の社会貢献事業の紹介を目的とした展示スペースも用意することになりました。

11.2

メイングラフィック完成



展示会のメイングラフィックとそれを使用したチラシが完成。用紙は協賛として株式会社竹尾よりご提供いただきました。完成と同時に、広報活動としてメディアや自治体、文化・情報拠点、福祉施設、障害とアートに関心の高い個人などに対して発送作業を行いました。

COMMENT

昨年度はさまざまなプロダクトのアイコンを作成。今年度は商品が作られる過程もダイアグラム化し、プロセスを伝えていくためのデザインを目指しました。

メイングラフィック担当：UMA/design farm

11.21

ドキュメント04発行



昨年度から発行しているドキュメントの最新号 vol.04 を発行しました。今年度の展示内容を反映し、コンテンツをリニューアル。展示に参加して下さった方々の商品に込めた想いや工夫、プロセスが伝わる充実の内容になりました。

8.22

Webサイト公開

「Good Job! 展 2014-2015」のオフィシャルWebサイトを公開。展示会やセミナーの最新情報をはじめ、動画やブログ、Facebookと連動して展示取り組みや展示会のお知らせ、来場者の紹介などの情報を発信しました。



9.13

一次結果発表

審査は難航しましたが、公募に自薦・他薦があった120件の取り組みのうち、一次結果発表として8件の取り組みをWebサイトに公表しました。

9.27

プレセミナー実施

「～個性を活かす障がい者アートの未来をデザインしよう～」というテーマで、一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツとの共催で、「GJ! 展」の開催を視野に入れた事前セミナーを行いました。



COMMENT

セミナーには、函館、釧路、網走といった遠隔地からも多数の参加者があり、北海道の潜在性が確認できたと思います。また、アンケートから「作品発表の場が少ない」、「事業者の理解が不足」などの生の声が聞けたことや参加者をつないだメーリングリストができ、成果が生まれました。

プレセミナー担当：小野尚弘 [一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツ 事務局長]

11.1

輸送計画決定

今回の巡回展では、12フィートコンテナ1台に、展示物や展示什器、販売物、配布物などをすべて収めて、鉄道やトラックで移動することにしました。

11.10

展示プラン決定

まずは、北海道展と東京展の展示会場プランが決定。同時に、ショップスペースでの取り扱い商品のラインナップが決定しました。



COMMENT

今年度はプロダクトの展示だけでなく、仕組み・メディア・動画・模型などの多様な展示物に臨機応変に対応でき、あくまでも展示物の引立て役となる什器づくりを目指しました。

会場構成担当：赤代武志 [dot architects]

11.19

トレーラー動画公開

Web告知用トレーラー動画が完成。動画での広報は、今回がはじめての試みでしたが、各取り組みの背景が伝わり好評でした。



COMMENT

撮影させていただいた方々とは、たくさんお話できた気がします。映像で伝えられることは限られていますが、Good Job! の活動とともに福祉を考えるきっかけになれば幸いです。

動画制作担当：中村太紀

Good Job! プロジェクトでは、障害のある人の新しいはたらき方を創出するための仕組みや取り組み、プロダクトなどの情報を集めています。

CALL for ENTRIES!

自薦・他薦 問わず!

Good Job! 2015-2016

<http://goodjobproject.com/>

8

奈良県香芝市に
あたらしい“仕事”をつくりだす、
Good Job! センターが生まれます。

Good Job! Center

2016年春 OPEN

一緒に仕事をつくりだす
企業やクリエイター、サポーター、
ここで働いてみたい障害のある人を
募集しています!

【お問い合わせ】
一般財団法人たんぼの家内 Good Job! センター設立準備室
Tel 0742-43-7055 Fax 0742-49-5501
E-mail goodjob@popo.or.jp

[Good Job! Annual Report 2014-2015]

発行日：2015年3月31日 発行元：一般財団法人たんぼの家 〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 Tel 0742-43-7055 Fax 0742-49-5501 E-mail goodjob@popo.or.jp URL <http://goodjobproject.com/> 監修：Good Job! プロジェクト 編集ディレクション&編集：多田智美 (MUESUM) 編集：永江大 (MUESUM) アートディレクション&デザイン：原田祐馬 (UMA/design farm) デザイン：廣田碧 (UMA/design farm) 印刷・製本：株式会社シーズクリエイト *本フリーペーパーは、下記の展示会開催に際し発行されました。[Good Job! 展 2014-2015] 主催：一般財団法人たんぼの家 後援：北海道、愛知県、札幌市、名古屋、神戸市、福岡市、公立大学法人札幌市立大学、北海道新聞社 助成：日本財団 特別協賛：株式会社丹青社、トヨタ自動車株式会社 協賛：株式会社国際デザインセンター、株式会社ソフィア、株式会社竹尾、株式会社西山ケミックス、株式会社ハーバー研究所、株式会社プリプレス・センター、ココロファニチャー株式会社、明治安田生命保険相互会社、WARDROBE by DHC 地域協賛：株式会社特殊衣料、九州ろうきん 協力：イムズ、渋谷ヒカリエ、一般社団法人北海道チャレンジアート&プロダクツ、NPO法人エイブル・アート・ジャパン、NPO法人まる

THE NIPPON 株式会社 丹青社 TOYOTA

idcn Sophia CHEMIX HABA

WASH 7 アーレス・センター KOKUYO 明治安田生命 WARDROBE

2014.11.21(fri.) GoodJob!、北海道展示会スタート!